

短期ホームステイにおける英語力、フォーリナー・トーク、意欲が
相手に与える印象に関する一考察

The Effects of English Ability, Foreigner Talk, and Motivation
on Impression Formation in a Short-Term Homestay.

(ホームステイ、英語力、フォーリナー・トーク、意欲、印象)

島田拓司

文化女子大学短期大学部

【研究の背景】海外研修を実施する大学や短大が増え、研修中にホームステイを経験する学生が増加しているが、参加学生がホストファミリーと十分に意思の疎通ができないために誤解を招いたり、トラブルに巻き込まれるケースがあることも報告されている(加藤、1992)。意思を誤解なく伝えるためには異文化コミュニケーション能力が必要なことは言うまでもないが、この能力には様々な要素が含まれている。Imahori and Lanigan(1989)は、異文化コミュニケーション能力を「コミュニケーション行動が適切であり、効果的であるという印象を相手に与える能力」と定義し、その中で訪問者側の「言語能力」と受け入れ側の「フォーリナー・トークの使用」を重要な能力と位置づけている。言語能力と異文化への適応の関係についての先行研究の多くは、言語能力の程度が適応の度合いを左右すると報告しているが、その中でも、特にYashima and Viswat(1992)は高校生のホームステイを調査し、ホストファミリーが評価した学生の英語を話す努力の程度とホストファミリーが評価した英語力には相関関係があったと報告している。ホームステイにおいては、参加学生とホストファミリーとの相互作用の中で、様々な印象を与えあっていると考えられ、ホームステイ参加学生の英語力がホストファミリーに与える印象、ホストファミリーのフォーリナー・トークの使用とそれがホームステイ参加者に与える印象との間には密接な関係があると考えられる。

【目的】本研究の目的は、短期ホームステイにおいて、ホームステイ参加者の英語力がホストファミリーにどのような印象を与え、またホストファミリーのフォーリナー・トークの使用が参加学生にどのような影響を与えるかについて考察することである。

【仮説】Imahori and Laniganの定義に従えば、参加者の英語力、ホストファミリーのフォーリナー・トークの使用の程度が相手にコミュニケーション能力があるという印象をあたえるはずである。本研究では以下の仮説を検証した。

- 仮説1：ホストファミリーが評価したホームステイ参加学生の英語力は、ホストファミリーに与える学生のコミュニケーション能力に関する印象に影響している。
- 仮説2：ホストファミリーが評価したホームステイ参加学生のコミュニケーションへの意欲は、ホストファミリーに与える学生のコミュニケーション能力に関する印象に影響している。

9月15日(金) 研究発表第8室(723)

仮説3： 学生が評価したホストファミリーのフォーリナー・トークの使用は学生に与えるホストファミリーのコミュニケーション能力に関する印象に影響している。

【方法】 1994年5月～6月にかけて約3週間半米国サンディエゴ市周辺にホームステイした文化女子大学短期大学部国際文化学科の学生75人とホストファミリー121人を対象に質問紙調査法で行った。学生に対する質問項目は、ホストファミリーのフォーリナー・トークの使用、コミュニケーション能力(コミュニケーション行動から得た印象に関する27項目)、コミュニケーションへの意欲、自分自身のコミュニケーションの満足度、ホストファミリーに対する質問項目は、学生の英語力、コミュニケーションへの意欲、コミュニケーション能力、自分自身のコミュニケーションの満足度に関するものであった。

【分析】 ホストファミリーが評価した学生の英語力の評価によって、上位群(17人)、中位群(18人)、下位群(18人)にグループ分けし、これら3グループが、ホストファミリーが評価した学生のコミュニケーションに対する意欲、コミュニケーション能力、及びホストファミリー自身が評価したコミュニケーションの満足度について差があるかを分散分析によって検定した。同様に、学生が判断したホストファミリーのフォーリナー・トークの使用の程度によって、ホストファミリーを3グループに分け、分析した。有意水準5%において差が見つかった場合には、LSD法を用いた多重比較検定を行った。

【結果】 分散の有意差検定の結果、英語力で分類されたグループは、コミュニケーション能力、ホストファミリーの満足度において有意であり、仮説1、2は支持された。コミュニケーション能力については、「融通性がある」、「同情的である」、「好感が持てる」、「注意深く聞く」、「応援してくれる」、「会話がぎこちない」、「自信に満ちている」、「感情移入できる」、「適応性がある」、「しっかりした自覚を持っている」、「打ち解けやすい」、「会話に注意を払う」、「気持ちに敏感である」など27項目中20項目において有意であった。フォーリナー・トークの使用で分類されたグループも、コミュニケーション能力、学生のコミュニケーションの満足度において有意であり、仮説3は支持された。コミュニケーション能力については特に、「融通性がある」、「同情的である」、「好感が持てる」、「信頼できる」、「尊敬できる」、「気持ちに敏感である」、「協力的である」など11項目において有意であった。

【結論】 学生の英語力、ホストファミリーのフォーリナー・トークの使用は、効果的な相互作用の結果としてあらわれるコミュニケーションの満足度に影響を及ぼすことが分かったが、学生とホストファミリーの相互作用の過程でも、コミュニケーション能力に関する様々な印象を与えていることが分かった。特に、学生のホストファミリーが判断した英語力は、学生のコミュニケーションに対する意欲の評価にも影響を与えていることがこの調査からも裏付けられた。

9月15日(金) 研究発表第8室(723)

資料

英語力によるグループ			
	Mean	SE	N
英語力(low)	3.74	0.14	42
英語力(Mid)	4.31	0.14	42
英語力(high)	4.74	0.14	42

フォーリナー・トーク使用によるグループ			
	Mean	SE	N
FT(low)	3.52	0.15	25
FT(mid)	4.15	0.15	25
FT(high)	4.54	0.15	25

英語力の及ぼすコミュニケーション能力、意欲、満足度

F T の及ぼすコミュニケーション能力、意欲、満足度

英語力の及ぼすコミュニケーション能力、意欲、満足度	F(2,123)	p	FT の及ぼすコミュニケーション能力、意欲、満足度	F(2,72)	p
1 融通性がある Low (3.74) < Mid (4.31) < High (4.74)	13.38	pk.001	1 融通性がある Low (3.76) < High (4.28)	3.32	pk.05
2 同情的である Low (4.26) < Mid (4.60) < High (4.91)	8.92	pk.001	2 同情的である	2.98	ns
3 好感が持てる Low (4.26) < Mid (4.60) < High (4.91)	8.92	pk.001	3 好感が持てる	3.02	ns
4 快い受け答えをする Low (3.93) < Mid (4.50) < High (4.81)	14.38	pk.001	4 快い受け答えをする Low (4.36) < High (4.80)	3.33	pk.05
5 信頼できる	0.37	ns	5 信頼できる Low (4.44) = Mid (4.52) = High (4.96)	6.61	pk.01
6 自己主張する Low (2.98) < Mid (3.57) = High (3.91)	7.48	pk.01	6 自己主張する	2.55	ns
7 話をよく聞く Low (4.57) < High (4.98)	6.86	pk.01	7 話をよく聞く	2.33	ns
8 サポートしてくれる Low (4.31) < High (4.79)	4.21	pk.05	8 サポートしてくれる Low (4.40) < Mid (4.88) = High (4.96)	8.43	pk.01
9 会話中疲れているようである	1.14	ns	9 会話中疲れているようである	1.25	ns
10 会話中ぎこちない Low (3.41) > Mid (2.69) > High (1.83)	18.71	pk.001	10 会話中ぎこちない	1.10	ns
11 話すスピードが速過ぎる	2.025	ns	11 話すスピードが速過ぎる Low (2.72) > Mid (1.96) = High (2.16)	3.27	pk.05
12 堂々としている Low (2.98) < Mid (3.86) = High (4.33)	18.35	pk.001	12 堂々としている	1.04	ns
13 感情を無視する	2.26	ns	13 感情を無視する Low (1.53) = Mid (1.60) > High (1.12)	4.43	pk.05
14 自信がなさそう Low (2.91) > Mid (2.36) > High (1.52)	12.63	pk.001	14 自信がなさそう	1.16	ns
15 話すスピードが遅すぎる Low (2.55) > Mid (1.88) > High (1.60)	9.01	pk.001	15 話すスピードが遅すぎる	0.05	ns

9月15日(金) 研究発表第8室(723)

16	感情移入がうまい Low (3.50) < Mid (3.91) = High (4.17)	F(2,123)=5.40	p<.01	16	感情移入がうまい	F(2,72)=2.61	ns
17	声が単調でつまらない Low (3.50) < High (4.17)	F(2,123)=4.34	p<.05	17	声が単調でつまらない	F(2,72)=0.19	ns
18	無表情である Low (1.67) > Mid (1.33) = High (1.05)	F(2,123)=7.68	p<.01	18	無表情である	F(2,72)=1.23	ns
19	相手に合わせるのがうまい Low (4.31) = Mid (4.43) < High (4.91)	F(2,123)=5.64	p<.01	19	相手に合わせるのがうまい	F(2,72)=1.49	ns
20	自分自身がよく分かっている Low (3.57) < High (4.33)	F(2,123)=6.56	p<.01	20	自分自身がよく分かっている	F(2,72)=2.26	ns
21	気軽に打ち明けられる Low (3.57) < Mid (4.05) < High (4.60)	F(2,123)=11.86	p<.001	21	気軽に打ち明けられる	F(2,72)=1.55	ns
22	尊敬できる	F(2,123)=0.52	ns	22	尊敬できる Low (4.32) = Mid (4.16) < High (4.88)	F(2,72)=10.11	p<.001
23	私を理解してくれる Low (3.36) < Mid (3.91) < High (4.52)	F(2,123)=20.06	p<.001	23	私を理解してくれる	F(2,72)=2.94	ns
24	会話に注意を傾ける Low (4.45) < High (4.89)	F(2,123)=4.32	p<.05	24	会話に注意を傾ける	F(2,72)=2.01	ns
25	私の気持ちに敏感である Low (3.98) < Mid (4.50) < High (4.86)	F(2,123)=15.23	p<.001	25	私の気持ちに敏感である Low (4.08) < High (4.60)	F(2,72)=3.94	p<.05
26	礼儀正しい	F(2,123)=0.83	ns	26	礼儀正しい	F(2,72)=2.01	ns
27	協力的である	F(2,123)=1.98	ns	27	協力的である Low (4.52) = Mid (4.56) = High (4.88)	F(2,72)=3.33	p<.05
28	意欲 Low (3.58) < Mid (4.21) < High (4.61)	F(2,123)=17.03	p<.001	28	意欲	F(2,72)=1.02	ns
29	コミュニケーションへの満足度 Low (3.81) < Mid (4.32) < High (4.60)	F(2,123)=31.41	p<.001	29	コミュニケーションへの満足度 Low (3.84) < Mid (3.96) = High (4.28)	F(2,72)=8.04	p<.01